

私たちが札幌医科大学麻酔科を選んだわけ

学生・研修医の皆様へ



後期研修医 田中 俊光

私が将来麻酔科に進もうと考えたときに、札幌医科大学麻酔科の後期研修プログラムに応募したのにはいくつかの理由があります。

まず第一に、自分の出身大学であり、ポリクリなどを通して後輩に対して教育熱心な医局であるという印象を持っていたからです。実際に大学で研修をしても、たくさんの指導医、専門医がいて、様々な麻酔の方法や考え方などを学ぶことができていると実感しています。また、様々な分野において、それを専門としている先生がいらっしゃり、その道のプロに詳しく教えてもらえるという点も非常に勉強になっています。

そして、2つ目に関連病院の豊富さがあります。プログラムの中で回ることになる地方の関連病院では手術麻酔だけでなく、ICU や救急を麻酔科が担っている病院がたくさんあります。手術麻酔だけでは学びきれないような知識や経験をつむことができるであろうと考えています。また、大学にはそのような病院で経験をつんだ多くの先生方が在籍しており、その貴重な経験や、多角的な視点というものを教えてもらっています。そのほかにも、関連病院には小児に特化した病院や、心臓手術を多く行っている病院、ペインクリニックがある病院などいろいろな病院があり、専門医取得後の自分の進路を決める助けになりそうだなと感じています。

そのほかにも、麻酔科ではいくつかの勉強会が開かれており、4月から初夏くらいまではいろいろな先生が自分の専門分野について詳しく講義してくれる麻酔塾というものが開かれています。教科書にはまだ載っていない最新の論文の知識や、先生方の豊富な経験など、様々なことを学ぶことができます。また、献体を使ったエコーガイド下ブロックや人形を使った経食道心エコーなどの様々な手技のハンズオンセミナーが定期的に開催されています。中には気管支ブロックや輪状甲状間膜穿刺などもあり、日常の診療ではあまり出会うことのないであろう手技の練習ができる良い機会となっています。

また、麻酔科では夏にはサマーレクチャー、秋にはボージョレーヌーボー会、冬にはウィンターセミナーなどの様々なレクリエーションもあり、ON と OFF のメリハリのある環境で学んでいくことができます。

このように、将来の目標にしたいと思えるような先生方に囲まれ、様々な手技や多くの学会発表の機会を頂けているという恵まれた環境の中で充実した毎日を過ごしています。

後期研修医 星 友絵

今年度から、札幌医科大学麻酔科で後期研修医専攻医として働いています。私の感想が、今後の麻酔科に興味をもつ学生や研修医の先生へ参考になれば幸いです。

当科の初期・後期研修医は日々、自分の担当症例の術前診察から麻酔管理、術後診察までを上級医の先生の監督のもと行っております。

麻酔科研修を始めて数か月経ちましたが、術前診察から麻酔導入・維持・覚醒そして術後診察と一人々の症例に一貫して取り組み、ともに症例を担当して下さる上級医の先生の知識や診療の姿勢を学び、日々生じる疑問をじっくりとフィードバックできる環境が、私を確実に成長させてくれます。

当科の上級医の先生は、大学・関連病院で手術麻酔、救急・集中治療やペインクリニックと多くの症例や場を経験しております。そこで学ばれた経験や培った知識を私達研修医に包み隠すことなく教えていただけるため、私達にとって非常に勉強となります。

当科にはたくさんの麻酔科指導医および専門医の先生方がいらっしゃいます。私が明日の麻酔方法について相談すると、上級医にとってはささいなことでも優しく接していただけるだけでなく、さまざまな考え方や方針を理論的に教えていただけるため、毎日が新鮮な気持ちで仕事ができます。

当科は、後期研修医の人数が多いことが特徴の一つでもあり、手技や経験症例が少ないのではというネガティブな意見があるかもしれませんが、そんなことは全くありません。十分に症例を経験することができますし、お互いの失敗や成功を共有することで、どんな患者さんの麻酔に対しても自信をもって対応できるよう、助け合いそして支え合う精神で日々取り組むことができます。

麻酔は緊張を強いられ、私達そして上級医の先生方も皆、真剣に日々の業務に取り組んでおられますが、一歩医療の場面を離れると、雰囲気はあたたかく、レクリエーションや飲み会など楽しむときはリラックスして思い切り楽しむ、というオンオフのある魅力的な科であると思います。

私の経験を文章にしてみました。伝えきれない部分も多いです。麻酔科や当科の研修に興味を持たれた方は、是非見学にお越しください。首を長くしてお待ちしております。

